

日本学校保健学会会員の皆様へ  
東北関東大震災被災の皆様へお見舞い申し上げます

去る3月11日(金)に発生しました東北関東大震災で亡くなりました方々に心からのお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

東北地方を中心とした被災されました地域の日も早い復興をお祈り致しております。

当方の資料によれば、東北地区ことに岩手、宮城、福島の3県には、平素より学会活動等で親しくご交誼をいただいています先生をはじめ、65名の会員が在籍しております。

また、表のとおり、3県には、小中高校合わせて、2300余りの学校に約65万人の児童・生徒がいます。

東北関東大震災の主な被害地域3県の学校数と児童・生徒数（平成22年5月1日現在）

都道府県	小学校 学校数	小学校 児童数	中学校 学校数	中学校 生徒数	高等学校 学校数	高等学校 生徒数	学校数 合計	児童・ 生徒合計
岩手	394	71,949	193	38,010	86	39,350	673	149,309
宮城	455	128,901	224	65,480	105	63,446	784	257,827
福島	513	117,668	246	61,866	119	61,221	878	240,755
3県の合計	1,362	318,518	663	165,356	310	164,017	2,335	647,891

日本学校保健学会は会則2条に「本会は学校保健に関する研究とその普及・発展を図る目的とする」と記しており、児童・生徒・学生の健康の保持・増進に関する学術研究とその成果の発展、普及を図ることを目的に1954年に創設されました。

本学会はこの目的に向かって、科学的、かつ実践的に尽力して参りました。

今回の大震災は、1000年に一度という大災害であり、単に地震による直接の被害だけでなく、津波による大惨事、原子力発電所による放射能汚染等、予期せぬ事態が次々と発生しております。

被災地域の子どもの健康問題に関して、

1. 栄養面：報道によれば、被災地では食糧や水の供給が不足しているとのことであり、長期に亘れば、発育、発達に大きな影響が出ることは明らかです。
2. こころの問題：今回の大地震による恐怖感とその後の衣・食・住にわたる生活条件の極度の悪化は、次第にPTSD（外傷後ストレス障害）として、子どものこころを深く傷つけるものと思われます。
3. 放射線障害：現時点においては、それ程の線量ではないとのことでありますが、成人と子どもでは感受性に差があり、長期的な観察が必要と思えます。  
とりあえず以上の3点が重大な懸念事項であります。

1に関しては、行政による早急な物流の回復を期待する以外には学会として具体的な行動は取りえないと存じます。しかしながら、2の問題に関しては、本学会にもこの方面に関するエキスパートが多数メンバーとなっておりますので、ぜひそれぞれの立場でご尽力いただきたいと思います。

また、3に関しても、本学会もある程度は関与できるのではないかと存じます。

とりあえず今回は、このようなメッセージを発信させていただきますが、早急に常任理事会、理事会等で協議し、被災地域の皆様の健康問題にいささかでも貢献できるよう全力を挙げて取り組む所存であります。

日本学校保健学会会員の皆様とご家族のご無事を心より祈念申し上げます。

平成23年3月18日  
日本学校保健学会  
理事長 佐藤 祐造